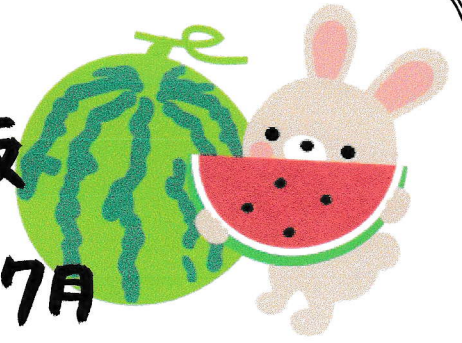




# 徳成寺 寺ともかわら版

第139号 2018年7月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

先日ある方からお電話を頂きました。受話器からポロッと

「かわら版が届くと、仏様とつながっているような気がします」

と、つぶやかれました。私としては最高の褒め言葉を頂いた気分です。

なぜなら、それこそが寺ともかわら版やお寺の使命だと思うからです。

振り返って日頃の私たちは、何とつながっているのでしょうか？時代社会の

価値観に染まった欲望と、その欲望が満たされない苦悩に縛られたりしていない

でしょうか。生き辛さを感じたり、生きるのが苦しかったりするの、私たちが

つながるものを間違えてますよというサインです。意識を超えて私たちの

いのちが喜ぶ仏様とのつながりを回復して参りましょう。

—発行責任者—

住職  
大山健児

坊主

大山ひとみ



\*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

## 大山超世の耳を澄ませば

どうも、長男です。

6月は父の日ということでなにか良い物がないか探していたところ、妹が香川の地酒、悦・凱陣をプレゼントしていたので、大人気ないと思いながらも負けん気を出して結構珍しい日本酒をプレゼントしました。写真右から

東京都 新政酒造 新政エクリュ・純米酒 福井県 黒龍酒造 黒龍・大吟醸  
埼玉県 神亀酒造 ひこ孫 詞・純米吟醸

と、言うことでまだ一升瓶に並々入った悦・凱陣とは違う方向性のお酒を1本、勝るとも劣らない同系統のお酒を2本選びました。父親のプレゼントを選ぶのに頭を使ったのは初めてで、日本酒のランクだったり、コメの品種の話、使われている水、どんな蔵元なのか等を事細かに聞いた結果、会計までにたっぷり1時間かかってしまったので、普通に生活している人よりも遥かに日本酒に詳しくなったような気がします。開栓の際にどんなリアクションを取るのか非常の楽しみです。

